



2020年12月8日

各 位

広島市安佐南区祇園3丁目28番14号  
株式会社アスカネット  
代表取締役社長 松尾 雄司  
(コード番号:2438 東証マザーズ)  
問合せ先:専務取締役CFO 功野 顕也  
電話番号: 082(850)1200

## 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年6月9日に公表いたしました2021年4月期(2020年5月1日~2021年4月30日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 通期業績予想の修正 (2020年5月1日~2021年4月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	6,368	436	471	325	19.36
今回修正予想(B)	5,775	200	250	164	9.76
増減額(B-A)	△593	△236	△221	△161	
増減率(%)	△9.3	△54.1	△46.9	△49.5	
(ご参考)前期実績 (2020年4月期)	6,575	709	710	501	29.79

#### 2. 修正の理由

新型コロナウイルス感染拡大が2021年4月期の業績予想に与える影響として、当初計画では、パーソナルパブリッシングサービス事業におきましては、プロフェッショナル写真市場向けの主力であるウェディング用写真集の受注は第2四半期までは苦戦するものの第3四半期からは戻り始める前提としており、また、コンシューマ向け市場においても第3四半期からは旅行等の自粛からの回復により底堅い需要が戻ることを前提としておりました。メモリアルデザインサービス事業におきましては、第2四半期から超小型化している葬儀形態が、徐々に通常化していくことを前提としておりました。

しかしながら、現状では新型コロナウイルス感染拡大は、第3波の広がりが懸念されているなど、上記の前提条件とは大きく異なる様相を呈しており、このような現実を鑑み、パーソナルパブリッシングサービス事業では第4四半期後半から段階的に通常の状態に戻り始めるとの前提に、メモリアルデザインサービス事業では第3四半期から段階的に通常の状態に戻り始めるとの前提にそれぞれ改め、第3四半期以降の業績予想を見直いたしました。

パーソナルパブリッシングサービス事業におきましては、このような環境下でも手堅い需要が見込まれる子ども写真などの写真スタジオ向け製品の拡販に注力し一定の成果を出しているものの、主力のウェディング向け製品の落ち込みが大きく、売上、利益とも当初の計画を大きく下回る見込みとなりました。コンシューマ向けにおきましても、旅行やイベントなどの自粛に伴う撮影機会減少の継続は写真集発注へネガティブな影響となり、当初計画より下回る見込みとなりました。

また、メモリアルデザインサービス事業におきましても、地域によっては通常化の兆しがみえているものの、葬儀の小型化は継続しており、特に動画などの葬儀演出サービスの受注環境は厳しくなっているため、当初計画を下回る見込みとなりました。

損益面につきましては、広告宣伝費や研究開発費など各種経費の抑制を進めておりますものの、当社のビジネスモデルが、パーソナルパブリッシングサービス事業、メモリアルデザインサービス事業とも、自社社員、自社設備による内製を前提としており、限界利益が高い反面、固定費の負担が大きく、売上減少に伴い利益の落ち込みが大きくなる構造となっており、利益も当初計画を大きく下回る見込みとなりました。

※上記予想は、本資料公表日現在において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上